

丸嘉ビル

小粒ながら街角で光る、森山松之助設計の日本で最も古い宝石店

お店の歴史

日本最古の宝飾小売店

昭和4（1929）年6月3日、日本最古の宝飾小売店として開店しました。初めは日本橋にお店がありましたが、当時の社長・喜多村喜之助氏が、銀座は商業の中心地になると考え、移転を決めたそうです。



開店時の広告

もとはキセルや根付けなど金銀の細工物を扱っていましたが、銀座に移ったころからダイヤモンドのアクセサリーなども作るように。丁寧な仕上げにこだわり、指輪は絹の洋服にもひっかからないと評判になりました。



●年ごろの指輪
(●●●●より)



輝き続ける MARUKA

第二次世界大戦時、高価なものを国に供出することとなり、商品は全部なくなっていました。戦後は宝石の仕入れが困難な時期が続きましたが、やがて商売を再開。現在まで、新しい試みを取り入れつつ、創業時からの精神を引き継いでお店が続いています。



2000年ごろの指輪
(『銀座百点』2000.10月号に掲載)

店内には昔の写真が飾っており、お客さんが親子二代、三代でまちの様子を語り合うこともあるそうです。



天使の羽をイメージした指輪
"AILE"(アイル)

建物について

建物の特徴

森山松之助（1869~1949）の設計で、昭和4（1929）年に建築されました。

カットされた輝石を思わせるレリーフ、真珠のような球形の照明、屋根のスペイン瓦などが、モダンでおしゃれな雰囲気を作り出しています。建物は大規模な改装をしていますが、3階と屋根にはレリーフやスペイン瓦が今も残っています。



3階のレリーフ

スペイン瓦



建築当初の丸嘉ビル



建築当初の2階サロン



建築当初の1階店舗



丸嘉ビル

小粒ながら街角で光る。森山松之助設計の日本で最も古い宝石店

～オーナーの思い～

テナントの意向も取り入れながら改修されてきた丸嘉ビルですが、3階は外側は当初のまま、内部も昔の趣を残しています。これは二代目社長・喜多村氏の熱望によるもの。建物を愛する喜多村氏の思いが、歴史的に貴重なデザインを今に残しました。

建物を作った人たち

設計者の森山松之助は、明治後期から昭和初期にかけて活躍した建築家です。台湾で多くの公共建築に携わりました。商業建築の作品も多く、中央区では、丸嘉ビルの他にヨネイビル（銀座）や玉置薬局（東日本橋）を設計しています。

施工は清水組。当時、清水組が扱うのはもっと大規模な建物がほとんどでしたが、向かいの交詢ビルの新築工事と同時期だったため、担当することになったといえます。



©Ayumi



